



マサバ（対馬暖流系群）

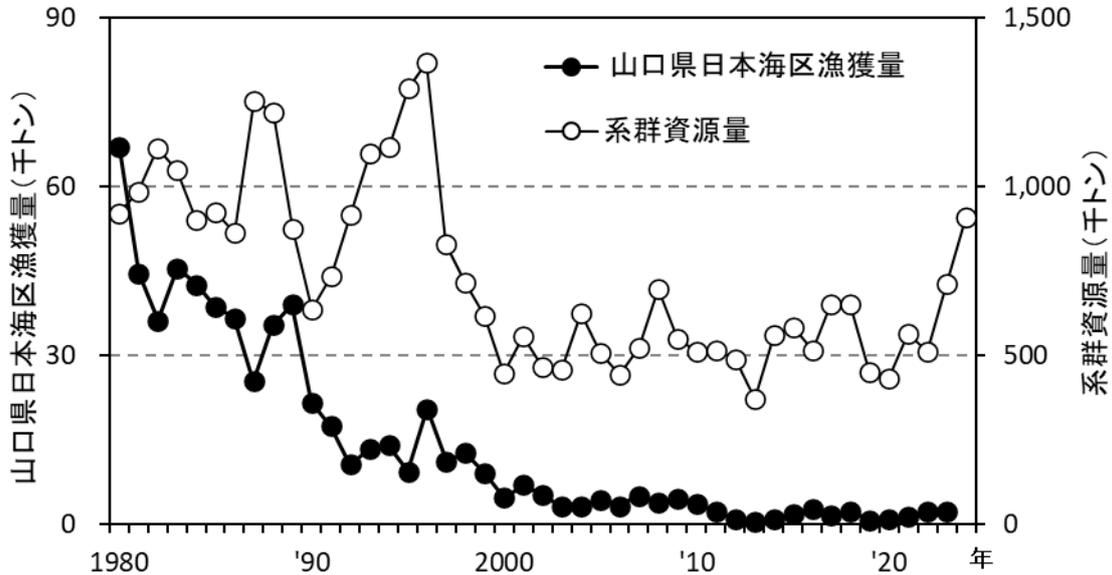


図 山口日本海区さば類漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報、マサバ主体、ゴマサバ含む）及び対馬暖流系群マサバ資源量（（国研）水産研究・教育機構資源評価報告書）の推移

【漁業】さば類は主にまき網で漁獲される。近年、初夏と秋にサバ子（尾叉長 30cm 以下）が主に漁獲されている。

【漁獲量】山口県日本海区のさば類（ゴマサバを含む）漁獲量は、1980 年には 67,000 トンであったが、その後は著しく減少し、1999 年以降は 1 万トンを下回った。2013 年には過去最低の 586 トンまで低下したが、その後は 800～2,700 トンとやや増加し、2023 年には 2,289 トンであった。

【資源状態】資源量は 1973～1996 年には、概ね 100 万トン前後で安定的に推移したが、2000 年以降は 50 万トン前後に留まった。2021 年以降増加傾向を示し、2024 年は 91.1 万トンであった。

2024 年の親魚量 (SB) は最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SB<sub>msy</sub> : 目標管理基準値) を上回った。また、2024 年の漁獲圧 (F) は MSY を実現する漁獲圧 (F<sub>msy</sub>) を下回った。親魚量の動向は増加と判断された。

2024 年漁獲量 (万トン)	MSY (万トン)	2024 年親魚量 (万トン)	目標管理基準値 (万トン)	限界管理基準値 (万トン)	禁漁水準 (万トン)
26.0	26.7	34.0	33.0	11.7	1.3